

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
発育発達論 The Theory of Growth & Development		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(健康運動実践指導者、スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、幼児体育指導者資格取得者は必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
運動生理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
健康運動実践指導者、スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、幼児体育指導者資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
山内 健次	本館2階	木曜・金曜 9:00~16:00 (授業時間中は除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
幼少年期における発育発達の身体的変化(身長・体重・骨格の発達)や、運動の発達は著しい成長を遂げている。また成人期から老年期に至るまでの人たちは、発達を終え老化へと向かっていく。運動を指導するものにとって、これら全ての人たちの身体と体力の変化を知ることは、年齢に適した運動の内容の検討や、強度を設定する際に知っておかねばならない知識である。この講義では乳児の発育発達速度や幼少年期、成長期における体力テストの結果からわかる運動発達の変化と、発達の先天性や後天性の要因について理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①乳児・幼児・児童・生徒の運動発達の順序が理解できるようにする。 ②統計的な発育発達に関するグラフを見ることにより、その発達特徴の説明ができるようにする。 ③年齢に応じて、運動を行なう目的の違いが理解できるようにする。				
授業の方法				
パワーポイントと配布プリントを利用した講義が中心				
学習の成果				
①乳児から高齢者までの運動の発達と老化の変化が理解することができる。 ②運動機能の発達には先天的な要因として何があるのか、後天的な要因として何があるのかを説明することができる。 ③年齢に応じた運動プログラムを作成することができる。 ④統計的に示されたグラフを見て、傾向を読み取れることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の進め方、成績評価方法、講義受講にあたっての注意点) 発育発達論とは			
第2回目	新生児、乳児期の身体・体力発達			
第3回目	幼児期の身体・体力発達			
第4回目	児童期・青年期の体力発達			
第5回目	発育発達期の心理的特徴			
第6回目	ジュニア期のスポーツプログラム①(全身動作の習得)			

第7回目	ジュニア期のスポーツプログラム②(ねばり強さの習得)		
第8回目	ジュニア期のスポーツプログラム③(力強さの習得)		
第9回目	発育発達と運動障害		
第10回目	壮年期の体力変化		
第11回目	青年期・壮年期のスポーツプログラム		
第12回目	老年期の体力と老化		
第13回目	老年期のスポーツプログラム 女性とスポーツ		
第14回目	現代日本人の体力特徴		
第15回目	定期試験とまとめ		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		50%	S評価は、私語なく講義に集中できておりレジメにしっかりと必要事項が書きこめていいる。また統計グラフから何が読み取れるかの質問をするので、正確に読み取れている。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		50%	グラフや表の読解力を問う記述式問題と、発育発達に関連するキーワードとなる語句を説明してもらう。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書:「健康運動実践指導者養成テキスト」(健康・体力づくり事業財団) 参考図書:「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ」(日本体育協会) 「公認スポーツプログラマー養成テキスト」(日本体育協会) 「現代の体育・スポーツ科学 体力の発達」朝倉書店			
履修上の心得・ルール			
・毎回資料プリントを配布する。教室への飲食物は持ち込まない。真剣に授業に取り組み積極的に質問することを望む。			